

令和5年度小・中学生のふるさと学習作品展表彰式 教育長あいさつ

令和5年11月11日（土）  
生涯学習センター

令和5年度「小・中学生のふるさと学習作品展」表彰式に当たり、主催者を代表して御挨拶申し上げます。

本日特別賞を受賞される皆さん、おめでとうございます。今回の受賞は、皆さんが熱心に調査・研究に取り組まれた努力の賜物であり、心からお祝いを申し上げます。

また、保護者の皆様、学校関係者の皆様におかれましても、それぞれのお立場で、作品制作を通じた学びを御支援いただきましたことに対し、深く感謝申し上げます。

この「小・中学生のふるさと学習作品展」は、愛媛県にゆかりのある人物の業績や、身近な地域で活躍されている方々の生き方に目を向けることで、先人への感謝の気持ちや郷土を愛する心を育むことを願って毎年開催しており、多くの皆様に支えられ、今回で21回目を迎えました。

各学校から審査を経て提出された作品は、それぞれに創意工夫が凝らされており、力作ぞろいでした。中でも、厳正な審査を通過し特別賞に選出されました26点の作品は、いずれも郷土にゆかりの深い人物を題材に、近隣の方々や文化遺産、社会教育施設での取材活動など、自らの足で調査・研究に取り組むことによって、幅広い観点から考察し制作されたことがうかがえるとともに、郷土への誇りと愛情が強く感じられ、主催者としても心強く思っております。

さて、本県ゆかりの俳人・正岡子規は、「美しき花もその名を知らずして文（ふみ）にも書きがたきはいと口惜し。」という言葉を残しております。何かを知り、好奇心をもって知識を得ることの大切さが伝わる言葉だと思います。

皆さんは今回の調査・研究を通して、偉人たちと接し、知識を蓄え、そして理解した内容を作品に存分に込めたことで、偉人の偉大さを再認識するとともに、自らの学習成果を表現する力を磨くことができたのではないのでしょうか。

どうか愛媛の未来の担い手である皆さんには、今後もふるさと愛媛について、主体的に学び、考え、行動して、愛媛で生まれ育ったことを誇りに思いながら、明るく、愛顔（えがお）で、生き生きと過ごされることを強く願っています。

終わりにになりましたが、今回の作品展の実施に御理解・御協力をいただき、本日御臨席賜りました関係団体の皆様方に厚くお礼を申し上げ、開会のあいさつとさせていただきます。

受賞される皆さん、誠におめでとうございます。